



# 海外生活 エッセー

ロンドン事務所

## 地下鉄のストライキは日常茶飯事？

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐 高坂真理子 (宮城県仙台市派遣)

1863年に開業した世界最古の地下鉄であり、Tubeという愛称を持つロンドンの地下鉄。ロンドン交通局 (Transport for London / TfL) が運行管理を行っており、年間利用者数は約13億500万人、1日当たりの平均利用者数は約358万人と、通勤や通学、観光の足として多くの人に利用されています。その地下鉄では、昨年夏から断続的に大規模なストライキが行われています。11ある地下鉄の全路線が停止するストライキは十数年ぶりとのこと。

### → ストライキの背景

今回の大規模ストライキのきっかけは、ロンドン市長が地下鉄の24時間運行を目指したことにあります。ロンドンには、夜間にも一定の間隔で運行するNight Busがあり、24時間バスを利用することができますが、地下鉄にも同じ枠組みを導入し利便性を高めることを狙ったものです。当初は、2015年9月の週末から主要5路線でNight Tubeを導入し、2020年までに他の路線にも拡大する予定で、約2000人の新規雇用と30年間かけて3億6千万ポンドの経済効果が生み出されることが報告されていました。24時間運行の導入に向け、労使間で労働条件についての交渉が重ねられていましたが、交渉は決裂し、ロンドン地下鉄全線での24時間ストライキに突入しました。

### → ストライキ当日

昨年第一回目のストライキはウインブルドン選手権などの観光シーズンの真っただ中、7月9日から10日にかけて行われました。報道によると、観光客を含む数百万人に影響があったと考えられ、3億ポンド (約510億円) のコストが発生したとのこと。TfLはストライキへの対応としてバスの増発などを行いました。運

行表どおりに来ないバスを待つ人で街中があふれかえる事態になりました。またタクシーや自家用車などを利用した人もおり、ロンドン市内の道路全体で見ると、1,332キロメートルにわたる渋滞が発生したとされています。8月にも地下鉄全線で24時間ストライキが実施されました。7月ほどの混乱はなかったようですが、9月に予定されていたNight Tubeの導入は延期となり、現時点でも導入時期は明示されていません。

### → 反応と今後の見通し

今回のストライキに対するマスコミの報道や人々の反応はというと、比較的恵まれた労働条件にある運輸士などがさらなる改善を要求していることを批判する声はあるものの、その手段としてストライキを選択し実施したことに対する批判はそれほど見受けられません。ストライキについてうんざりしつつもあきらめながら受け入れている印象があります。

今年2月には、Night Tubeの導入にむけた進展がありました。昨年のストライキに参加した4つの労働組合のうち最大の労働組合が、TfLの提示した労働条件を受け入れたのです。ただし、Night Tubeの問題が解決されればストライキがなくなるわけではありません。つい先日も、保守管理部門の職員らが安全性を争点とし、複数回のストライキを実施する予定との発表がありました。

日本で公共交通機関のストライキを経験したことのない私にとって、昨夏の地下鉄のストライキはまさに驚く体験でしたが、最近ではストライキのお知らせがあっても、またかと思うぐらいで感覚が麻痺してしまっています。ただ、出張や旅行で来られる皆さんにとっては想定外の一大事だと思いますので、海外出張の際、特に現地の公共交通機関を利用される場合は、事前に交通情報を確認されることを強くお勧めする次第です。